

「カートランドとノーブーにおける多妻結婚」からの抜粋

福音トピックスの論文 (topics.ChurchofJesusChrist.org)

末日聖徒は、一夫一婦制、すなわち一人の男性と一人の女性との結婚が、結婚に関する主の永続的な律法であると信じています。聖書の時代、主は御自身の民の一部に多妻結婚、すなわち一人の夫が複数の妻を持つ結婚を行うように命じられました。末日聖徒イエス・キリスト教会の初期の会員の中にも、神の預言者を通して与えられたこの戒めを受け入れ、従った人々がいました。

ジョセフ・スミスは多妻結婚を実施するよう命じる啓示を受けた後、複数の妻をめとり、この制度を親しい同僚たちに紹介しました。この原則は、ジョセフ自身とそのほかの教会員にとって、回復の業の中で受け入れるのが最も難しい原則の一つでした。」

教会における多妻結婚の始まり

……ジョセフは、1834年から1842年の間に3度天使の訪れを受け、行動を起こすのをためらっていた多妻結婚を始めるように命じられた、と同僚に告げています。3回目の最後の訪れのとて、天使は抜き身の剣を携えて来て、事を進めて戒めに完全に従わなければ滅ぼすとジョセフに迫りました。……

ジョセフとエマ

多妻結婚はすべての当事者にとって厳しいものでしたし、ジョセフ・スミスの妻エマにとって耐えがたい試練でした。多妻結婚に対するエマの反応の記録はわずかで、自筆の記事を残していませんので、彼女の思いを推測するのは困難です。ジョセフとエマは互いを深く愛し、尊敬し合っていました。彼は多妻結婚を始めた後、「最愛のエマ」に対する気持ちを日記に書き連ね、「不屈の、確固として揺るぎない、不変の、愛情の深いエマ」と述べています。ジョセフの死後、エマは、首にかけたロケットの中に彼の毛髪を保管していました。

試練と霊的な証

……ヘレン・マー・キンボールによれば、ジョセフ・スミスはこう述べたそうです。「この原則の実践は聖徒たちにとって、自分の信仰を試される最も苛酷な試練となるでしょう。」……

熱烈に祈り、真剣に自己を内省して初めて、このような厳しい試練を受け入れる決心ができるのが常でした。プリガム・ヤングは多妻結婚について知ったとき、「生涯で初めて、自分は墓に入りたと思いました」と言っています。また、「わたしは絶え間なく祈らなければなりません。信仰を働かせなければなりません。すると主は、それが真実であることをわたしに啓示してくださり、わたしはそれで納得しました」と述べています。……

ルーシー・ウォーカーは、ジョセフ・スミスから妻になるようにと言われたときの心の動揺を回想し、記録しています。「わたしの魂のあらゆる感覚がそれに不快感を示しました。」しかし、数日眠れない夜を過ごして度々ひざまずいて祈った後、部屋が「まばゆい日の光」に似た「聖なる力に包まれ、」彼女は安らぎを覚えました。「わたしの魂はかつて一度も味わったことのない穏やかで心地良い平安に満たされました」と、彼女は述べています。「わたしの全身はこのうえない幸福感に包まれました。」

まとめ

多妻結婚のような物議をかもしかねない原則を導入する際の難しさは、筆舌に尽くしがたいものです。この原則が真実であるという霊的な証を得て、ジョセフ・スミスとその他の末日聖徒はそれを受け入れました。それは困難でしたが、ノーブーにおける多妻結婚の導入が、実際に神のために「子孫を起こした」のです。今日の会員の相当数が、多妻結婚を実施した忠実な末日聖徒の子孫なのです。

末日聖徒

イエス・キリスト
教会